

建築主：株式会社カブトス  
設計：E4株式会社  
farm  
施工：E4株式会社  
所在地：夷隅郡大多喜町新丁17-2

入賞

一般建築物の部

～物・人・知の連関による歴史の再編～

## ROVEN OTAKIMACHI

大多喜城下の街道に面して大正から平成に建てられた母屋・蔵・住宅・倉庫をレストラン、一棟貸のホテルとして改修した建築群である。

使用されていない城下町の街道の雰囲気を残した建物を取り壊さずに、新たな収益施設としてよみがえらせている。

元々酒屋であり、街道に面して開かれた造りとなっていた土間から中庭までをレストランとして空間を拡げ、空間の利用率をあげている。

既存の階や部屋を区切るものを抜いて、建物の持つ気積を大きくし、抜いた部材や建具を別棟や外構で転用(再利用)して、環境負荷低減にも配慮している。



商屋を改修したレストランと奥へとつづく通り土間



籠ることを楽しむ蔵を改修した宿

(撮影全て:JUMPEI SUZUKI)

一棟貸のホテルは2棟あり、田園の間は過去の増改築の痕跡を所々に見せて、地元の歴史的な素材を感じさせている。複数人の居場所をつくることでセミナーハウスのような使用も可能としている。大多喜城を望むテラスデッキは城下町としての景観を思い出させる。

蔵の間は、架構を見せつつ壁面素材を生かした閉鎖的な空間で落ち着いた雰囲気とし、別棟の風呂では開放感を感じさせている。

運営や施工において、地元職人とチームを組み慣習的なディテールを習い入れることで、人と技術の連関を未来へとつなげる役割を担っている。(久富 清敏)

入賞

住宅の部

～緑が誘う内と外が溶け合う住まい～

## 都市の通庭

ガソリンスタンドと集合住宅に挟まれた旗竿地に建つこの作品は、道路を歩いているだけではその存在に気づきにくい。しかし奥へ目を向けると緑豊かなポケットパークが広がり、木々の隙間から覗くベンチや小さな水鉢に興味を惹かれ、つい足が奥へと進んでしまう。そよ風に揺れる葉音と柔らかな光に包まれたこの小さな空間は、都市の喧騒を忘れさせ、住まいの第一印象をやさしく彩る場となっている。

ポケットパークを抜けると、「内路地」と呼ばれる空間が広がる。吹き抜けから降り注ぐ光と窓越しの緑、さらに裏庭とつながることで内路地全体に心地よい風が流れ込み、室内でありながら屋外のような開放感を生み出している。内路地の壁には隣接する個室につながる装飾窓が設けられ、そこから漏れる柔らかな光が家族の存在を感じさせ、住まい全体に温かさにつながりをもたらしている。

さらに内路地は、住人が料理教室やイベントを開くなど、プライベートとパブリックが自然に交わる場でもある。時には犬の散歩をする人がポケットパークに迷い込むこともあり、偶然の訪問がこの場所にちょっとした賑わいを添えている。ポケットパークから内路地、裏庭へと続くこの空間は住まい手のみならず、訪れる人々に穏やかで心地よい時間を提供している。(加藤 未佳)



裏庭へと続く路地のメタファーとしての屋内空間



敷地高低差を活かし通庭に設えられた歩廊と居場所  
(撮影全て:西川公朗)